



特集

有珠山を知る

2000年噴火から20年の月日が経過しました。

有珠山は現在も火山活動を継続し、一般的に20年～30年周期で噴火が発生すると言われていますことから、次の噴火も決して遠い未来の出来事ではありません。

しかし、歴史の中で噴火を繰り返すことによって、私たちの生活にさまざまな恵みを生み出しています。

上手に有珠山と付き合って生活していくために、有珠山について知識を深めていきましょう。

■問合せ 企画防災課広報統計グループ(☎ 74-3004)



噴火体験を教訓に 有珠山噴火について知るべきこと

有珠山噴火について、現在の火山観測や研究を進めて分かっていることを北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測センター青山准教授に話を聞きましたので、有珠山についての知識を深めましょう。

2000年噴火当時の記録を振り返ることで、当時を思い返し、家族で避難場所を確認するなど、しっかり準備しましょう。

2000年有珠山噴火

3月28日～3月31日の記録

3月28日

室蘭地方気象台が火山観測情報第1号を発表。「火山性地震が増発し、27日8時から24時まで109回

を記録（平常時に観測される平均回数は1か月に20～

30回程度）しましたが、火山性微動は観測されていません」と同時、火山情報をお知らせすることを発表。

室蘭地方気象台臨時火山情報が発表され、道、胆振支庁、道警、町（旧虻田町）が各自の災害対策連絡本部を設置し、（町は夕方に災害対策本部に格上げ）警戒態勢に入る。

同3号が発表され、「地震活動が活発化した後、1日ないし数日の間に噴火した例が多いことから、今後噴火する可能性があり、警

戒が必要」と注意を促した。

町では、とうや湖コミュニティセンターや旧月浦小学校、あぶたコミュニティセンターを自主避難所と設定した。

3月29日

火山性地震が589回を記録。

室蘭地方気象台緊急火山情報第1号で「今後数日以内に噴火が発生する可能性が高くなっており、火山活動に対する警戒を強める必要がある」と発表。

午後、洞爺湖温泉地区や泉地区の一部、入江地区の一部の住民2,704人（約1,411世帯）に避難勧告を発動。

夕方にはすべての観光客がホテルを退去。

室蘭開発建設部は、国道

有珠山を知る

2000年噴火から「もう20年」

しっかりと準備することが大切

―有珠山の特徴

有珠山は噴火する度に、噴火口の近くで山や丘が作られます。もう1つの特徴としては、山頂噴火の場合、噴煙が高く上がることが多いです。噴煙は上空約1万メートルの高さまで上がっていきます。

―噴火の時期・場所の特定

有珠山は前兆地震が発生すると、必ず噴火します。しかし、噴火時期や場所の特定は難しく、噴火の歴史を見ても日本のどの火山も特定できたことはありません。

有珠山噴火の歴史の中では、最初の前兆地震が始まったから、5日間〜1週間くらいの間に噴火活動することが多いですが、例外として32時間噴火したこともあれば、半年間の月日がかかったこともあるので、噴火時期の予測は難しいです。

噴火場所については、前兆

地震が始まると、マグマの上昇に伴って地表に変化が現れてくるため、観測の分析が進む

と、ある程度の場所の特定ができるかもしれません。

―2000年当時と

現在の観測体制の変化

現在は2000年噴火の時より観測体制が強化されています。札幌管区気象台に火山監視・警報センターが設置され、有珠山の変化を見逃すことがないよう充実した体制で監視を行っています。観測の機械も当時より良いものとなっていますし、観測項目も増えています。気象庁と大学で観測データの共有も図りやすくなったので、当時より研究も進んでいるところです。

―一番恐ろしい噴火災害

噴火災害で一番恐ろしい災



北海道大学大学院理学研究院
附属地震火山研究観測センター

青山 裕 准教授

害は火砕流です。火砕流は時間的な余裕がなく、あつという間に山の斜面を流れていきます。範囲も大きいことが予想され、予測ができないため、人命にかかわる被害となってしまう。

―次の噴火に向けた心得

有珠山は噴火する前に、必ず前兆地震が発生するので、事前に準備できると安心して暮らす住民もいると思います。が、実は、最近噴火している他の火山に比べて、分からないことが多いです。噴火に向けて頭の中で2000年噴火の状況などを思い出し、避難のイメージをしっかりと持ち、家族で話し合い、準備することが大切です。

37号入江、長和間、国道230号入江、ルスツ間、国道453号長和、大滝間の通行止めを発表。

岡田弘教授が「有珠山は一両日中に噴火の可能性は極めて高く、遅くとも一週間以内に噴火する」と会見を行う。

JR室蘭本線長万部、東室蘭間運転中止。

温泉地区全域を避難勧告から避難指示に切替、入江・泉地区の一部も避難指示に切替、避難者数合計1、473人。

3月30日

火山性地震1、629回を記録し、そのうち有感地震628回。

洞爺湖温泉地区全員の避難を確認する。

岡田教授が「長期間の揺れが続いており、爆発的な噴火を起こす可能性がある」と指摘し、有珠山北部の噴火の恐れについて言及する。

自治会長会議を開催。長

崎良夫町長は「有珠山の現況は緊迫した状況である」と話し、町で行われている体制の説明や災害弱者の情報について確認したい事項など、避難体制の徹底などをお願いした。

室蘭地方気象台緊急火山情報第2号で「北屏風山西尾根内斜面で断層や地割れを確認、協会病院付近でも地割れを確認しました」と発表。また、洞爺湖温泉地区では、道路亀裂、水道管破裂の情報が消防本部に入

る。

3月31日

30日の火山性地震は2、454回を記録し、有感相当の地震は1、091回と発表。

消防庁は、火砕流発生に備えて、緊急消防援助隊を派遣。

13時7分、有珠山西側山麓から噴火。

有珠山噴火による

恵み

景観

有珠山噴火が発生することで、少なからず被害を受け、避難することになりますが、噴火によって生み出される恵みのおかげで今の生活があることを再認識しましょう。

今から約11万年前、巨大な噴火が発生し洞爺湖が生まれ、2万年前に洞爺湖の南岸で有珠山が誕生しました。前ページで青山准教授が話しているように、この地域では、火山活動の度に大地の形が大きく変わってきました。数十年に1度の割合で目の前の景色を変え続けてきたこの地域は、世界でも類を見ない「変

動する大地」を体感できる貴重な学びの場であり、火山活動が形成した美しい景観を楽しむことができます。

火山の恵みである温泉をはじめ、火山や森、湖、海の魅力を身近に感じながら気持ちよく汗を流せる散策路（フットパス）など、大地の変化から生まれる観光資源がたくさんあります。

町では変動する大地を観光資源として生かし、現在まで、観光産業を盛り上げてきたところです。



有珠山を知る

す。

町の観光産業の中心として盛り上げてきた歴史があります。

現在まで、洞爺湖温泉街を
町の観光産業の中心として盛
り上げてきた歴史がありま
す。

温泉

洞爺湖温泉は 1910

年の有珠山噴火によるマグ
マの上昇で誕生しました。

1917年には、最初の旅館
竜湖館が営業を開始し、その
後も次々に旅館が開業されま
した。

洞爺湖温泉街は有珠山の麓
にあり、洞爺湖温泉が誕生し
てからも3回の噴火を経験し
ています。それでも私たちは、
噴火によって湧き上がる温泉
の恩恵を受けて、町の産業を
盛り上げているのです。

次の噴火がいつ起こるのか
はまだ分かりませんが、噴火
災害を恐れるだけでなく、火
山の恵みがあってこそその生活
であることをもう一度考えて
みましょう。



◀洞龍の湯



薬師の湯▶



食

洞爺湖を誕生させた約11万
年前の噴火は、噴出物を洞爺
湖周辺で数10メートルも堆積
させ、周囲の溪谷を埋め平坦
な地形を作り出しました。洞
爺湖の北西に広がる火砕流台
地は、現在は広大な農場とし
て豊富な作物を生産していま
す。

噴火がつくり出した日当た
りの良い平らな地形が、おい
しいジャガイモを収穫するた
め

めに役立っています。また、
財田地区では、水はけのよい
湖畔の扇状地を利用して、ブ
ランド米となっている財田米
を生産しています。海産物で
は、噴火湾を巡る海流がプラ
ンクトンを循環させるため、
ホタテが生育する環境に適し
ています。

紹介したのは、食の恵みの
一部です。町の特産品は農産
物・海産物のどちらも楽しむ
ことができます。皆さんの食
卓にも火山の恵みによるおい
しい食材が並んでいると思い
ます。

